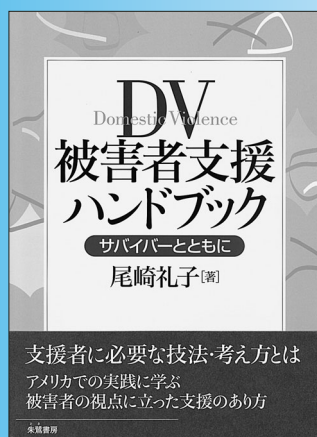


アメリカでのDV 概念・技術, 支援方法を系統的に解説した書

【評者】畑下博世 滋賀医科大学医学部看護学科

DV被害者支援ハンドブック サバイバーとともに

尾崎礼子(著)



定価 2,100 円 (本体 2,000 円 + 税 5%)

A5判, 196 ページ

朱鷺書房 (Tel.06-6323-3297)

ドメスティック・バイオレンス (Domestic Violence, 以下 DV) への関わりについては看護基礎教育や継続教育で系統的に学ばなかったため、いろいろな疑問や不安を持ちながら活動している人たちが多いのではないのでしょうか。DV の被害者や加害者に適切に関わり支援していくために、専門職として DV についての基本的知識や介入方法を知ることが求められてきています。

2000 年以降、急激に DV に関する出版物が増えたことは事実です。しかし、なかなか実際の支援方法を知りたいという私たちの要望に応えてくれる書物がなかったというのも現実です。そんな私たちにとって今回出版された『DV 被害者支援ハンドブック』はとても貴重な参考書と言えます。この本はアメリカで用いられている DV 概念・技術、支援方法を日本でも応用できるように系統的かつ具体的に説明しています。なぜなら、この本は単身でアメリカに渡り、オハイオ州で DV 活動を行っている日本人女性による実践経験にもとづいて書かれているからです。また、オハイオ・ドメスティック・バイオレンス・ネットワーク新人研修マニュアルの枠組みに沿って書かれてもいるのでより詳細な内容を知ることができます。

この本はまず、アメリカや日本の反 DV 運動の経緯が述べられているので、DV は個人の問題ではなく社会の問題であるということを私たちはしっかりと認識できます。次に、「なぜ男たちは妻や恋人に暴力を振るうのか」のからくりを解くために必要な基本的知識が説明されています。もしかしたら間違った知識ではと悩みながら支援している人たちは、ぜひお読みください。DV にさらされている被害者やその子どもたちがどのような影響を受けながら生活しているかについても書かれています。被害者のみならず子どもたちへの影響も考慮して支援する必要性を再確認できるでしょう。併せて、彼らを支援するために必要な危険度チェック項目やセーフティプランも詳細に説明されています。また、支援者にとってどここの国でも共通であるべき支援の種類、態度や倫理、支援者に必要な技法について書かれているので「そうか、こんな場合はこうすればよいのか」と納得できます。それだけではなく、実際に支援に関わる人たちの負担や支援者が自分をどうケアしていくかについても書かれています。

この本は科学的な根拠と自らの実践にもとづいて系統的かつ詳細に DV 被害者・加害者支援について書かれています。いままで「DV には関われない」と思っていた人や「関わっているが、これでいいのか」と悩みながら支援していた人たちにぜひお薦めの 1 冊です。